

[ゲンロク]

GENROCK

GENROCK

8

No.378

AUG 2017

特集：メルセデスAMG E63S日本上陸 / ジャパニースーパースポーツ in FISCO

三栄書房



2017
AUG No.378
定価
860Yen

8

FIRST IMPRESSION

ランボルギーニ ウラカン・ペルフォルマンテ

The AMG World

AMGの魔力

- [日本上陸] 新型E63S徹底解剖
- [最強仮想バトル] E63 × BMW M5
- [至高の対決] S63カブリオレ × S550カブリオレ
- [SUPER TEST] AMG GT R



JAPANESE SUPER SPORT レクサスLC × ホンダNSX × ニッサンGT-R
 BMW NOW! 新スーパーカープロジェクトをキャッチ!
 8シリーズ & M4 CS初試乗 / M760Li × 740e
 PREMIUM SUV WORLD ランドローバー 新型ディスカバリー
 レンジローバー・ディーゼル / ベントレー・ペンティガ
 THE GRAND TOURING ポルシェで走る5400km / ミツレ・ミリア2017参戦記
 SHOP REPORT BMW / ロールス・ロイス / GT-R 特選ショップ

REPORT ● 中三川大地 (Daichi Nakamigawa) PHOTO ● 白谷 賢 (Ken Shiratani)

回 転方向に向かって、まるでクラウチングスタートのような姿勢で佇んでいるように見える。その繊細なスポークは、静止していても、走り、を予感させ、クルマが動きたすと瞬く間に溶け込み、わずかな鈍色を放ちながらその奥の大径ブレーキを露わにする。

ハイパーフォージドの新作「HF-DiC」と初対面したとき、その絶妙なアンバランス加減にノックアウトされた。国産鍛造製法を武器に、無骨ながらもどこか華のあるスタイリングを具現して、世界中のあらゆるハイエンドカー、特にスーパースポーツを支えてきたブランドだ。注目すべき銘柄は数限りないが、今年、登場したHF-DiCは間違いなくヒットすると確信した。

鮮烈なる冒頭の印象、それはハイ

HYPER FORGED HF-DiC for Mercedes-AMG S63 Coupé

ジャパンメイド鍛造、新たな提案

究極のアシンメトリー。

ハイパーフォージドとしては初となる左右非対称(アシンメトリー)デザインを採用したことが大きい。ボディ左右での交換性をいさぎよく捨てることで、停まっても流れるようなスタイリングを実現した。作り手側としてはコストが高み、またユーザー側としても左右のローテーションが不可となるなど、ネガティブな要素は確かにある。それでも、そのハードルを乗り越えて結実させたHF-DiCは、ハイパーフォージドの製品群にあってもハイエンド中のハイエンドモデルである。

スーパースポーツ界やプレミアムSUV界で、徐々に認知され始めているHF-DiCだが、このたび目の前に現れたのはメルセデスAMG S63クーペだった。カルサイトホワイトのボディにはいっさい触らず、iDのロワリングキットでわずかに車高を落としたのみ、そこに今回の主役であるHF-DiCの、それも22インチを投入した。まさしくホイール一点豪華主義。いや、メルセデスAMG S63クーペの価値を考えると、互いが呼応しあった絶妙なコーディネートというべきか。

この車両は、福岡にある気鋭のカスタムショップにして、世界各国の一流ブランドを巧みにコーディネートしてきたECスペックのもの。メルセデスAMG S63クーペというクルマの存在感を引き立てながらも、ホイールを変えたいという魅力を訴えた見事なコーディネートだ。

なお、サイズはフロントが9J、リアが11Jで、それぞれ255/30/295/25のミシュラン・パイロットスポーツ2を組み合わせていた。これに、先述したiDのロワリングキットが組み合わさり、日常での気苦労を感じさせない程度の車高を手に入れつつ、まるでフェンダーとリムが同一平面にあるかのようなク

リアランスも得ている。さらに、特注ノンダストブレーキパッドを投入することで、ガンガン走り回ってもホイールの輝きが失われないように配慮した。

ECスペックのような、高い技術を持つトレンド発信基地に支持されてきたところこそ、ハイパーフォージドの底力がある。シンプルながらも普遍的に美しいと思える造形を提供し続けてきた感性はもとより、サイズやフィニッシュ、カラーコーディネートなど、使い手側の選択肢を可能な限り豊富に用意する。それが、全国各地にいる感度の高いカスタム職人たちを刺激したのだ。単純に製品を押し付けるだけではない。ショップやユーザーなど使い手側で、いかようにでも発展させることが可能な「幅の広さ」もまた魅力だ。

それはもちろん、HF-DiCであっても同じこと。19、22インチの範囲で、リム幅は最大で15Jまで用意される。自由に選べる環境を整えるからには、そのすべてに信頼耐久性を備えていなければならない。そこで、8000tの鍛造機と最新のCNC機械加工が組み合わさって丹念に生産される、国産鍛造ならではの製品力が武器となる。出力性能の高い最新のスーパースポーツへの装着事例が多いことから、その「強さ」は実証されている。だからこそ、誰もが全幅の信頼を寄せ、実際にハイエンドカーの足元で輝くことができるのだろっ。

そうした意味では、ハイパーフォージド初の左右非対称パターンモデルとなるHF-DiCの物語は、まだ始まったばかり。これから日本全国で、とすれば世界中で、いかなるコーディネートを見ることができ、いか。いまから待ち遠しい。



ホイールの回転方向に向かって倒れかかるとなる5×2本のスポークを持つのがHF-DiCの特徴。ハイパーフォージドとしては初の左右非対称パターンだ。ボルトホールとの関係にも一切無駄がなく、AMGダイナミックパッケージによる大型キャリパーを飲み込む。この個体、ディスクはアナダイズドブラックと微妙に質感を分けているのがポイント。コーディネート幅もハイパーフォージドの魅力だ。



PRICE LIST	
HYPER FORGED HF-DiC	
19インチ(7.5J~14J)	13万6000円~18万9000円
20インチ(7.5J~15J)	14万7000円~20万6000円
21インチ(7.5J~14J)※リバースリム	17万7000円~24万8000円
22インチ(8.5J×14J)	22万4000円~34万9000円

※価格は税別。